



歌声で平和の尊さを訴える

コール・メムが定期演奏会

「悪魔の飽食」など合唱

深川混声合唱団「コール・メム」（村上はるみ団長）は二十四日、第四十五回定期演奏会を深川市文化交流ホールみらいで開いた。旭川市を拠点に活動する「北海道『悪魔の飽食』をうたう合唱団」との合同演奏会を兼ねての開催。市内外から訪れた約三百人が、「手をつなごう」戦後80年によせてをテーマにした両団体の合唱を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さをかみしめた。

この日、両団体の総勢五十四人が、演奏会の第三部で「悪魔の飽食」全七曲を合唱した。「悪魔の飽食」は、細菌兵器を開発した旧日本軍の関東軍731部隊が、中国東北部ハルビン市郊外で数々の人体実験を行った実話を題材にした合唱曲。一九八四年に東京と神戸で初演されると、その後、全国各地で演奏会が行われるようになった。

指揮者の工藤昌晴さんが、「北海道『悪魔の飽食』をうたう合唱団」の指導を担っている縁もあり、「コール・メム」は昨年の定期演奏会に同合唱団を招き、「悪魔の飽食」の四曲を披露。そして今年には、全曲を歌うことを目標に、同合唱団との合同演奏会を企画。七月から、それぞれの団員が互いの練習に参加するなどして、準備を進めてきた。

ロシアのウクライナ侵攻を始め、今も戦争のニュースが毎日のように飛び込んでくる中、「この曲を歌わなくてもいい平和な時代がくること」を願った両団体メンバーの歌声に、友人と二人で鑑賞した市内の霜山富士子とされた原爆をテーマ

平和の尊さ 歌声に込め

深川混声合唱団定演



【深川】深川混声合唱団コール・メムは24日、第45回定期演奏会「手をつなごう」戦後80年によせてを市文化交流ホールみらいで開いた。来場者約300人が歌声に耳を傾け、戦争の悲惨さと平和の尊さをかみしめた。

旭川を拠点に練習している北海道「悪魔の飽食」演奏会ではこのほか、第一部で「世界が一つになるまで」「St and Alone」など五曲が、第二部では広島、長崎に落とされた原爆をテーマをうたう合唱団と合わせて総勢54人で、「悪魔の飽食」全七曲を含む計14曲を歌い上げた。「悪魔の飽食」は細菌兵器を開発していた旧日本軍の関東軍防疫給水部（731部隊）の加害実態を歌詞にした楽曲。旧満州（現中国東北部地方）のハルビンで拉致されたロシア人親子が青酸ガスで殺される場面では、舞台上に登場した演者が動きや表情で当時の悲惨さを表現した。

（出井一彰）